

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 西門司 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

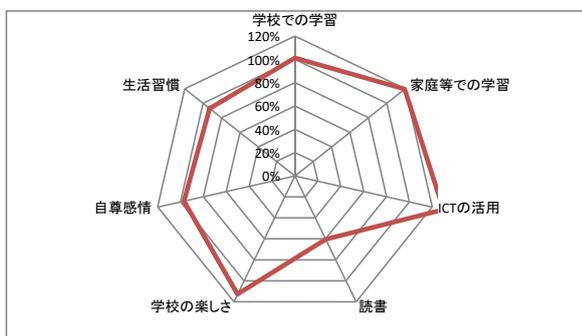
(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	○ 全体的に全国平均正答率をわずかに下回っている。特に、「知識・技能」の領域は全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 「読むこと」の領域では、文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する問題や目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約する問題の平均正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	○ 「話すこと・聞くこと」の領域では、目的や意図に応じて資料を使って話す問題の平均正答率が低かった。	
算数	全体的な傾向や特徴など	○ 全体的に全国平均正答率をわずかに下回っている。特に、データを活用した問題の正答率が全国平均を下回っている。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	○ 「図形」の領域では、三角形の面積を求める問題や複数の図形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを記述する問題の平均正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	○ 「変化と関係」の領域では、速さを求める除法の式と商の意味理解の問題の平均正答率が低かった。	
理科	全体的な傾向や特徴など	○ 全体的に全国平均正答率と同程度の正答率であった。特に、「粒子」を柱とする領域は、全国平均正答率を上回っている。	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	○ 「地球」を柱とする領域では、冬の天気と気温の変化の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	○ 「生命」を柱とする領域では、昆虫の体のつくりや育ち方に関する正答率が低かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
○ 生活習慣(朝食・スマホの約束・起床時刻)や規範意識(いじめ)について、全国平均を上回っている。また、読書時間や地域や社会への関心については、上回っている。
○ 学習の中で、ICTの活用した学習が勉強の役にたつことについて、全国平均を上回っている。学習の質や児童のスキルアップのためにもさらなる職員研修を通して、指導者側の活用スキルを高めることが求められている。
○ 自尊感情(自分のよいところ)・夢(夢や目標)については、全国平均を下回っている。自尊感情を高める活動を行う必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

○ 全職員で「スクールプラン」「学びチャレンジリーディングスクール」の本校での取組内容について共通理解をし、学習規律・ノート指導、補充学習、話し合い活動の重点化を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

○ 全職員で「スクールプラン」「学びチャレンジリーディングスクール」の本校での取組内容について共通認識をし、家庭学習の重点化を図る。本校の取組として、補充学習は家庭と連携して基礎・基本の学力向上を目指している。